

碩心

題字は松井岳洋筆

No.386

平成19年11月

発行

(社)日本詩吟学院岳風会認可

碩心会

発行者 加藤岳洵

編集者 磯村岳朋

神奈川県葉山町堀内206
Tel/Fax.046-875-3723

「今」を大切に

会計部長 加藤 岳 芳

日頃は、皆様のご理解とご協力をたまわり乍ら、会計業務を務めさせて頂いて戴いておりますことを、心よりお礼申し上げます。

さて、「出会いと別れの人生なのだから、遇った「今」を大切に」日課のウォーキングも、色づきはじめて木々の間を、気持ち良く進んでいる昨今ですが、寺の掲示板に右の言葉が貼られていました。

碩心会に27年在籍して、大勢の吟友との出会いがありました。おかげさまで、詩吟を学ぶと同時に、この葉山の地で安心して生活することが出来たのだと考えます。精神的に弱いタイプなので、指導やアドバイスの全てが、実にありがたいことでした。

御縁があって、老健施設の詩吟クラブからボランティアの依頼が有った時、ご恩返しとお役に立てるのであれば……と軽い気持ちで

お引き受け致しました。当初は20名の方たちとの出会いに無我夢中でやっていた様に思います。かつて高段位を取得した方からは、うんちくをかたむけられたり、試されているなァと感じる事もしばしばでしたが、実に内容のある勉強をさせて頂きました。そして10年の月日がすぎて、18名の方たちとお別れしました。

指導者としては未熟ものですが、今年4月より念願の新入会員二名と出会うことが出来まして、張りきって居るところです。初段の審査を受ける日迄の半年間は、共に大変なのですね。本番は息もつかずに見つめるのみで終ってホッと致しました。ご本人の努力は勿論のことですが、支部全員の応援の賜と感謝しているところです。自分自身が今日あるのも、諸先生方のあたたかいご指導のおかげです。今後は更に健康に注意して、常に「今」を大切にしつつ、碩心会のほんの一端でも担えるようつとめます。

行事予定

指導者講習会納会

日時・12月3日(月) 17時半受付

場所・相洋閣

葉山地区温習会

日時・12月9日(日) 9時半受付

場所・葉山町福祉文化会館ホール

平成20年

碩心会初吟会

日時・1月20日(日)

場所・葉山町福祉文化会館

春季審査会

日時・3月28日(土) (予定)

場所・葉山町福祉文化会館大会議室

昇伝認許

(平成19年7月1日付)

(皆伝 1名)

153 新井國岳

(九段 9名)

120 岡本優岳 123 佐々木邦岳

131 高見湘岳 132 守屋悦岳

135 時田千岳 136 坂本神岳

(十段 3名)

100 高橋之岳 103 大前智岳

124 原田義岳 131 高見湘岳

(準師範 2名)

104 海津祥岳

葉山町の文化祭に参加して

平松支部 村上 雍 岳

前日の20号台風が通り過ぎて今朝は富士山もくつきり見える好天気。10月28日、葉山町文化祭詩吟詩舞発表会が開催され、気持ちよく参加することが出来ました。



福祉文化会館の会場には出演する方の知人も多数見えて予想を越えた賑わいでした。私達出演者も胸を張って吟じ、そして舞うことが出来たように思いました。出吟数は70余りで、約3時間ほどの会でしたが終ってみると束の間の様な気がしました。

外に出てみるともう薄暗くなっていました。又来年の文化祭に思いをはせながら家路についた一日でした。



鎌倉市民文化祭に参加して

澁朗支部 後藤 伸 山

平成19年10月14日(日)レイ・ウエル鎌倉ホールに於て第22回鎌倉市詩吟詩舞連盟大会が全員参加のもと盛大に開催されました。

「富士山」の大合吟に始まり元気いっぱい少年少女の吟詠、会員吟詠、詩舞、各会長吟詠、理事長吟詠と締めくくりました。

「誇れる伝統文化」詩吟を知り好きになり多くの人の吟を聞き良いところを受け止め沢山の思い出をつくり人生もより豊かなものにして行きたいと思えます。

皆伝会吟の集い

相洋支部 西岡 岳 清



11月10日(土)葉山町福祉文化会館に於て皆伝会吟の集いが開催されました。会員吟詠は日頃の練習成果が披露され午前部が終了。

招待吟詠は招待の諸先生方の迫力ある模範吟に場内もシーンとなりました。役員吟詠も先生方の詩吟に打ち込む心意気を強く感じました。懇親会は、交流と親睦を目的とする会にふさわしく、大いに盛り上がり和やかな雰囲気の内、時が過ぎ、白井岳瑠誠吟会会長の力強い万歳三唱で無事終わりました。

逗子市文化祭

真澄支部 浅野 健 岳

菊薫る11月4日(日)逗子文化プラザなぎさホールに於いて第57回詩吟詩舞発表大会が開催されました。



吟詠では流派によって節調など微妙に違っており、やはり岳風流の吟が一番良いと思えました。各吟者とも一生懸命声を出し、その真剣さが伝わってきました。やはり稽古で相当吟じ込

んでいる人の吟は、失敗もなく声も大きいので聞いていて迫力が違います。

立体吟や詩舞も日頃の稽古を積んだことが充分うかがえる内容で、華麗な舞が会場を和やかにしました。出吟者数も適当であり、午後からの進行も順調に進み、予定時間内に終了し、ほど良い余韻を残して帰宅しました。最後に当日の役員の皆さん大変ご苦労様でした。

第118回全国吟道大会(沖縄)

滝の坂支部 行 谷 隆 風

11月18日沖縄全国大会が、宜野湾コンベンションセンターで開催された。参加者は千七百余名、歓迎の辞、修礼、国歌斉唱後「朗詠」を合吟。開会の辞で大会の幕が開く。

入賞杯返還(山形)レプリカ授与と続き、平吹大会会長が明治天皇御制「天」を謹詠。

プログラムは独吟28題、合吟26題、少年少女1組、沖縄地区の方々による構成吟と役員吟詠で行なわれた。独吟は地区代表だけあって、声量、吟技力共に素晴らしかった。

合吟で静神地区は94名出場し「神州」は息も合い、満足の出来だった。功労者表彰は碩心会から田中岳総(高齢者)内山岳青(運営者)立澤岳晴(指導者)以上3名。合吟コンクールは九州地区(岳鐘会)が優勝した。沖縄地区会員による構成吟「琉球漢詩を訪ねて」で躍動的に最後を締め閉会した。

菊花のはなし

真澄支部 高 橋 之 岳

11月4日、逗子吟舞大会が逗子プラザにて開催されました。フロアで真澄支部の池田昭岳さんから「之香先生、松井先生の菊です」と声を掛けられました。一瞬間のことか解り

ませんでした。2月に行われた「松井岳篁先生を忍ぶ会」の事と分かり話しを伺うと、皆さんに献花を頂いた一本の菊を大切に花瓶に挿して置いたら花が枯れたのに、根が生えていたので庭に移し、育てたら花が咲きました。今日松井先生と一緒に参加しようと思いい、切ってきましたと言うことでした。

一本の菊が亡き人を思い出させ、心の優しい池田昭岳さんに感謝し、誇りに思い投稿させて頂きました。

このように心温かく、充実した吟舞連大会を私は忘れることは出来ないでしょう。

自作自吟の喜び

松和支部 宇 都 宮 岳 徳

今年程詩吟と漢詞作詞を勉強していて良かったと思つた事はありませんでした。5月26日、私が学生時代にお世話になった水戸育英会寄宿舎が創設されて100年に当り、その祝賀会が開催され水戸藩18代当主徳川斉正様御臨席の下、水戸塾の卒業者と学生が百数十名集まった壇上で左記拙詩を吟詠し、式典に花を添えたとして出席の皆さんに喜ばれました。

題 水戸育英会寄宿舎創設百周年

育成子弟百年春 子弟を育成して百年の春
輩出鳳麟仟百人 鳳麟を輩出すること仟百人
在塾學生精氣旺 在塾の學生精氣旺にして

明公偉業愈振 明公の偉業に愈振うべし
(註) 明公は水戸塾を創設した16代園順公
次はその翌日の5月27日、碩心会70周年記念大会が開催され記念品として配布された立派な記念誌の巻頭「碩心会の詩」を解説した拙文が掲載された上、目次に続き拙詩「題碩心会創立70周年」が特別作詩として掲載されたことは無上の光栄であり作者冥利に尽きる次第で感謝感激の外ありません。

更に吟道大会の特別企画構成吟「司馬遼太郎の三浦半島を巡る」の中で遽に依頼を受けて作詩した横須賀港建設の功労者「小栗上野介と佛人レオンヴェルニーの胸像に題す」が全員の合吟で京愛会が舞い大変立派な出題となり誠に嬉しく存じました。

10月2日には、私達の母校である陸軍経理学校(現陸士自衛隊小平駐屯地)跡に建てられている「われらの士魂ここに育まれたり」の士魂碑の建立30周年の記念祝賀会に出席して、予め作詩した左記拙詩を碑前にて吟じ式典に彩を添えたと関係者に喜ばれ、自らも自作自演の喜びを深くした次第です。

題 陸軍経理学校跡士魂碑

遙望富嶽小平岸 遙かに望む富嶽小平の岸
盡国逸材研鍊場 尽国の逸材研鍊の場
更学烽煙經理道 更に学ぶ烽煙經理の道
士魂碑誌永難忘 士魂碑誌永えに忘れ難し

暮らしの雑学

「認知症予防」講座に参加して

一色支部 伊藤 岳光

昔は人生50年と言われましたが現在は寿命がのび高齢社会と言われるまでになっていきます。認知症の原因には脳そのものの病変による一次的要因と精神的ストレスによる二次的

要因に分けられるそうです。一次的なもの回避は避けられないとしても二次的なものは回避する事が出来ます。その為には自分自身の明日の為に積極的前向きに社会にそして地域と共に生きる事です。

研究会の諸先輩にも多数の方が自主的に社会参加され活躍されています。その先輩方のお話をこの紙面に是非投稿して頂きますようお願いしております。

今年はさんまが安いので、ちょっと時期はずれかもしれませんが、ためしてみたいかがですか。おいしく、楽しく、きちんと食べましょう。

◎さんまの蒲焼き丼

材料(1人分)	作り方
生さんま……………1匹 酒……………大さじ1/2 油……………小さじ2g 小麦粉……………適宜 大葉……………1枚	①さんまは三枚におろし、二つに切る。(二つに切ったもの三枚 80g位) ②①のさんまの水気を切って、小麦粉を薄くまぶす。 ③フライパンに油をしき、②のさんまを入れかりっと焼き、皿に取り出す。 ④③のフライパンの油をふき取り、合わせたタレを入れ煮立ったら③のさんまをもどす。 ⑤タレがさんまにからまってトロリしたら火を止める。 ⑥丼にご飯を盛り、⑤のタレをかけ、さんまをのせて山椒をふる。大葉の千切りを添える。
【タレ】 さとう……………大さじ2/3 しょうゆ……………大さじ1 みりん……………大さじ1/2 水……………小さじ2	
粉山椒(あれば) 米……………70g	

◎オクラとえのき茸のとろろ汁

材料(1人分)	作り方
だし汁……………150cc オクラ……………30g えのき茸……………40g 醤油……………小さじ1/4 塩……………少々 おろししょうが……………適宜	①オクラは塩少々をふって板ずりにし、熱湯でサッとゆで、小口切りにしてから包丁で細かくたたいて粘り気を出す。えのき茸は根本を落とし3等分に切ってはぐす。 ②鍋にだしと、塩・醤油を煮立てて①を加え、ひと煮たちさせる。 ③碗に盛り、おろししょうがをのせる。

◎小松菜とひじきの辛子しょうゆ和え

材料(1人分)	作り方
小松菜……………50g ひじき(乾)……………2g 桜えび……………1g しょうゆ……………小さじ1/2 練がらし……………1.5g	①小松菜はゆで3cmに切る。ひじきもどしゆでる。桜えびはからいりする。 ②しょうゆ、練がらしを混ぜ合わせ、①の具を加え味をからませる。

短歌

真澄支部 星野 岳輝

壊れ行く母の許より帰り来て
月影も無き暗き道行く

新米を送りてくれし友の荷に

酒もビールも有りて可笑しき

淋しくはないよと云えば嘘になる

夜の厨の氷落つる音

会員のついで

入会

326 宮内道子(滯朗) 逗子市小坪7-3-20-105
☎ 0467-23-3533

編集後記

山の紅葉もだんだん南下し箱根も紅葉狩りの時節です。最近までもみじイコールかえだだと思ひ込んでいました。広辞苑でもみじを何となく引いてみると「秋に木の葉が赤や黄色に色づくこと、またその葉」と有りました。かえでは別称とあり紅葉は、黄葉とも書く。尚、紅葉には「つた・はぜ・ななかまど・銀杏」など紅や黄色の葉が去り行く秋の山を飾っています。

広報部

19年	11月	現在	会員数
葉山地区			124名
逗子・大船地区			100名
合計			224名